

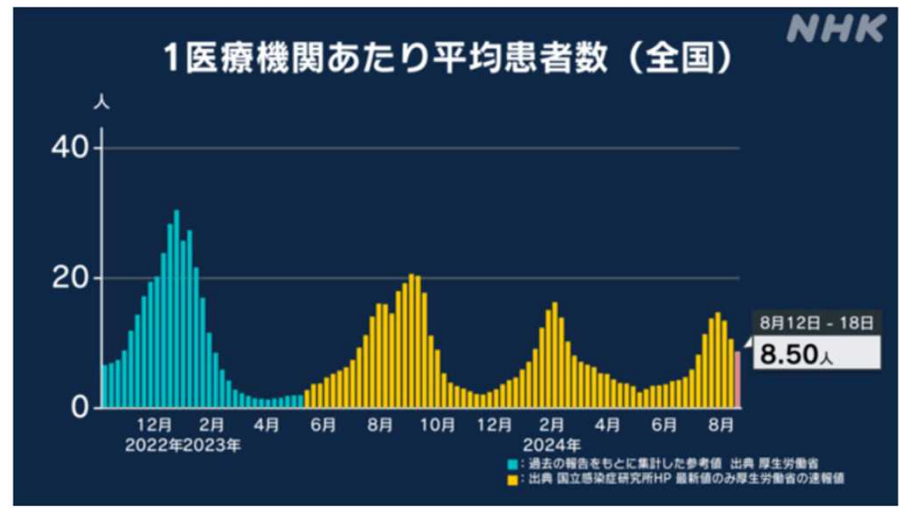
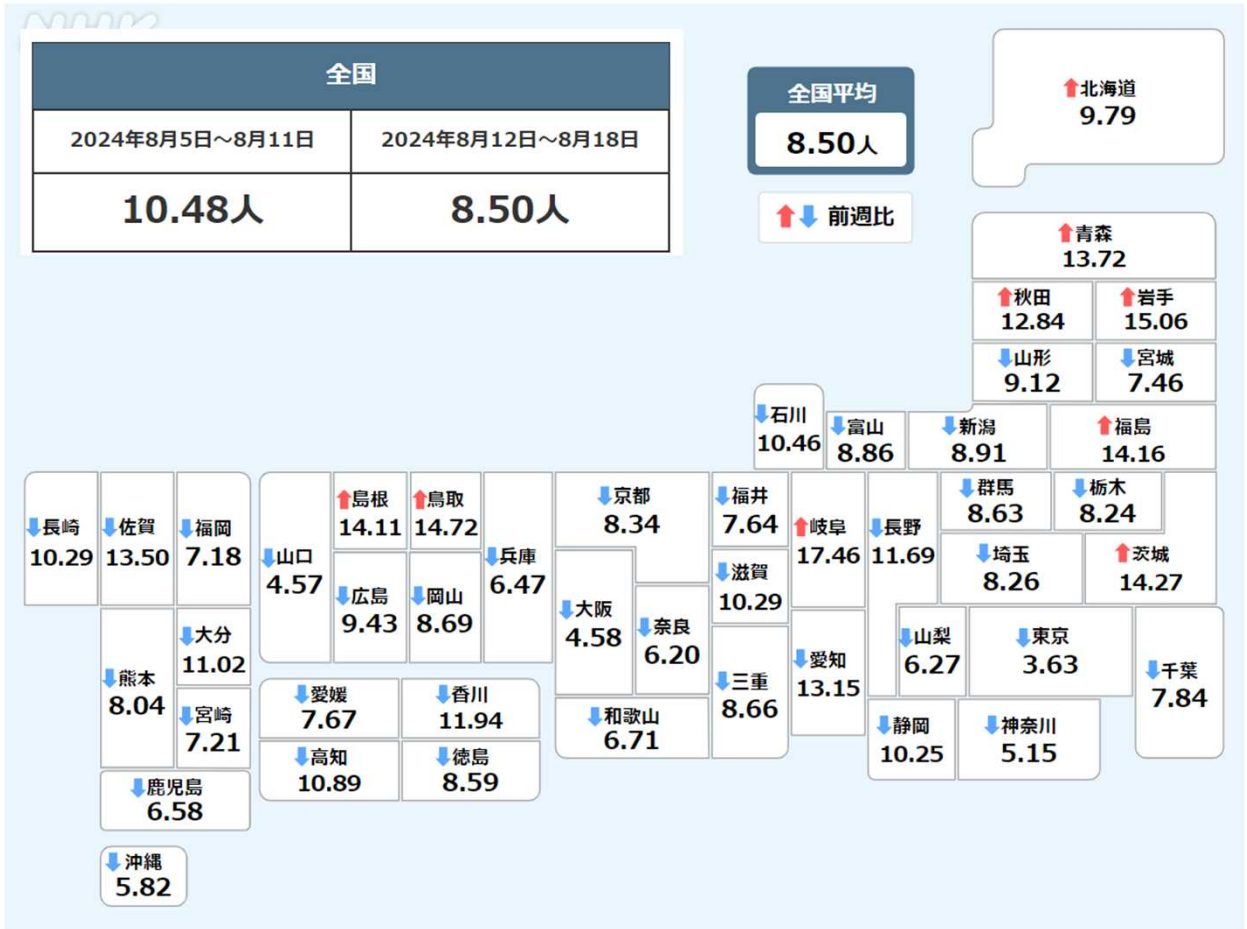
# 新型コロナウイルス感染症の流行状況と その他感染症について

滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課

令和6年9月3日

# 【全国】新型コロナウイルス感染症

# 全国の流行状況(8月23日時点)



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)定点当たり報告数・年代別推移

区分	第29週	第30週	第31週	第32週	第33週
	7/15-7/21	7/22-7/28	7/29-8/4	8/5-8/11	8/12-8/18
10歳未満	1.75	2.16	2.11	1.72	0.93
10～14歳	1.30	1.16	0.85	0.62	0.36
15～19歳	0.98	0.82	0.58	0.40	0.30
20～29歳	1.26	1.32	1.16	0.86	0.81
30～39歳	1.28	1.36	1.29	0.98	0.83
40～49歳	1.55	1.66	1.50	1.11	0.89
50～59歳	1.61	1.76	1.63	1.20	1.06
60～69歳	1.30	1.42	1.32	1.08	0.99
70～79歳	1.37	1.52	1.45	1.24	1.17
80歳以上	1.23	1.39	1.39	1.26	1.16
総数	13.62	14.58	13.29	10.48	8.50

NHK 【<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>】

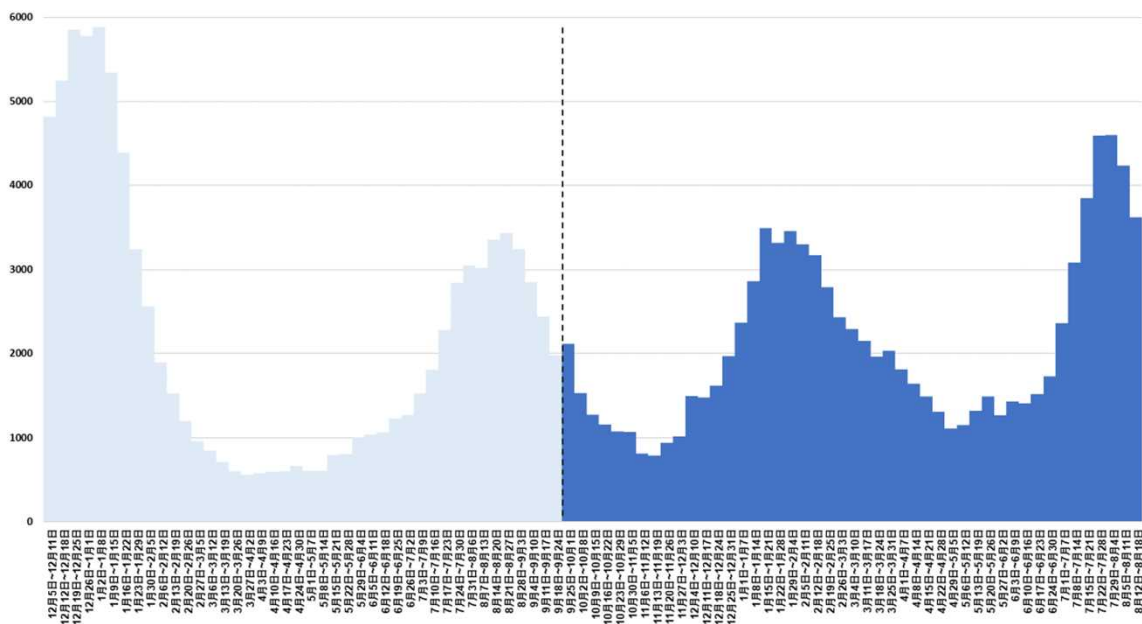
厚生労働省HP 【[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00086.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00086.html)】

# 国内の入院・病床使用状況(8月23日時点)

## 入院患者の届出数(基幹定点医療機関)

期間	(新規)入院患者数[人]	ICU入室(入室時)[人]	人工呼吸器の利用(入院時)[人]
2024/8/12 8/18	3,619	147	75

新型コロナウイルス感染症による入院患者の概況(第33週)  
新型コロナウイルス感染症入院患者数の推移

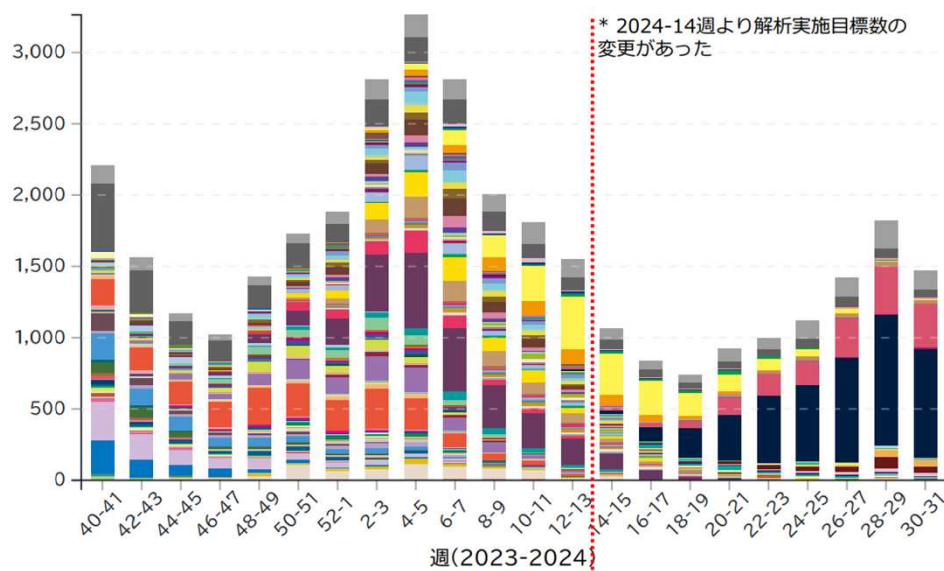


年齢	新規入院患者数(前週)
1歳未満	110(120)
1～4歳	74(70)
5～9歳	14(26)
10～14歳	16(28)
15～19歳	22(16)
20～29歳	39(40)
30～39歳	61(62)
40～49歳	69(79)
50～59歳	158(203)
60～69歳	316(404)
70～79歳	889(1076)
80歳以上	1851(2108)

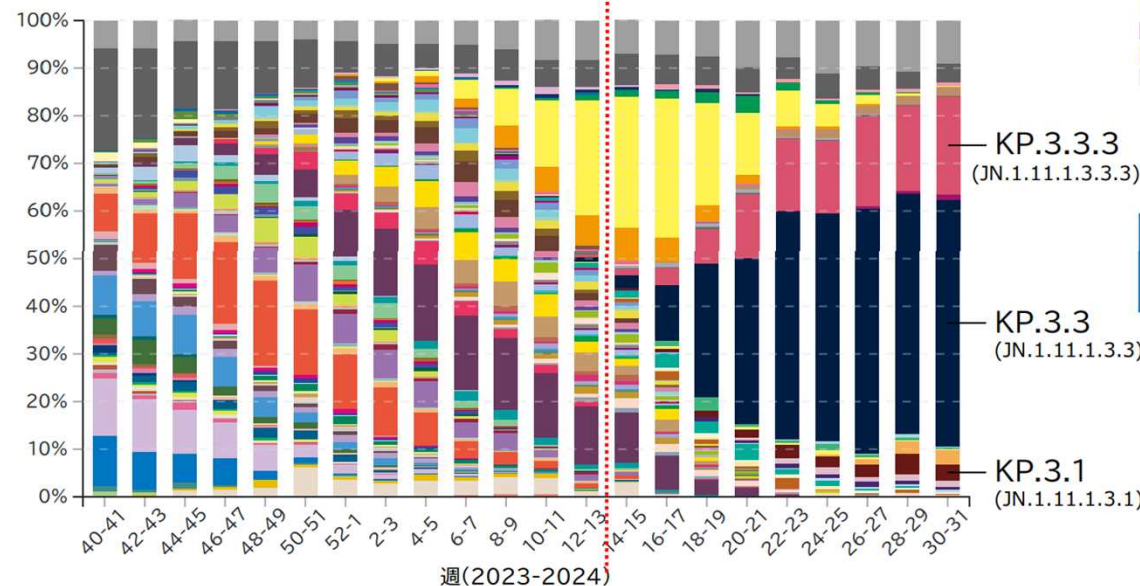
# 国内の流行状況 ゲノムサーベイランス

## 全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況 (2024年第27週時点)

Lineageの検出数(積み上げ)



Lineageの割合



- オミクロンJN.1株の子孫株であるオミクロンKP.3系統とその亜系統が依然国内で大多数を占めている

## (参考) KP.3株のウイルス学的特性

### KP.3株の液性免疫からの逃避能、伝播力\*1

#### 液性免疫からの逃避能

KP.3株は既感染、ブレイクスルー感染により誘導される中和抗体に対してJN.1株よりも抵抗性を示す

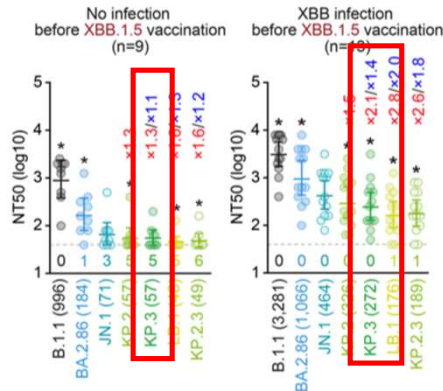


図4. オミクロンKP.3株、オミクロンLB.1株、オミクロンKP.2.3株はオミクロンXBB.1.5株対応1価ワクチンにより誘導される中和抗体に対してオミクロンJN.1株よりも抵抗性を示す

#### 伝播力 (ヒト集団内における実効再生産数の推定)

KP.3株は親系統株のJN.1株より伝播力が高い

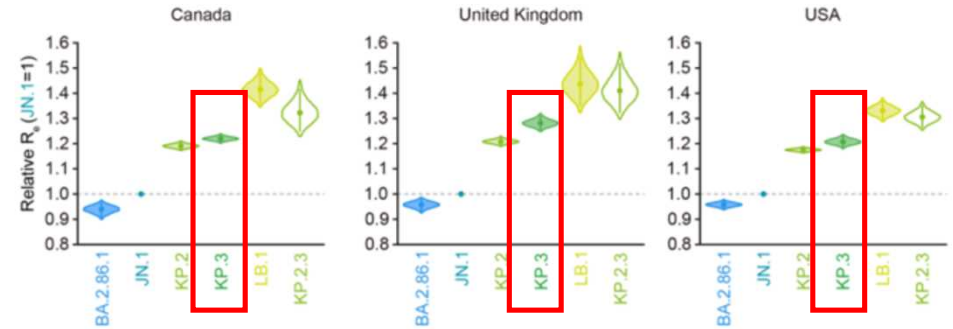


図: オミクロンKP.3株、オミクロンLB.1株、オミクロンKP.2.3株は既存の流行株よりも高い伝播力を示す

- KP.3株は、親系統株であるJN.1株と比べ、自然感染やワクチン接種による免疫の効果が低下し、効率的に感染拡大していく可能性がある。
- 一方、重症度についての違いは報告されていない。\*2

\*1 【東京大学HP】[https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page\\_00289.htm](https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00289.htm)

\*2 【英国保健安全保障庁HP】<https://ukhsa.blog.gov.uk/2024/05/13/should-we-be-worried-about-the-new-covid-19-variant-2/>

# その他の注目すべき感染症

- エムポックス
- 鳥インフルエンザ



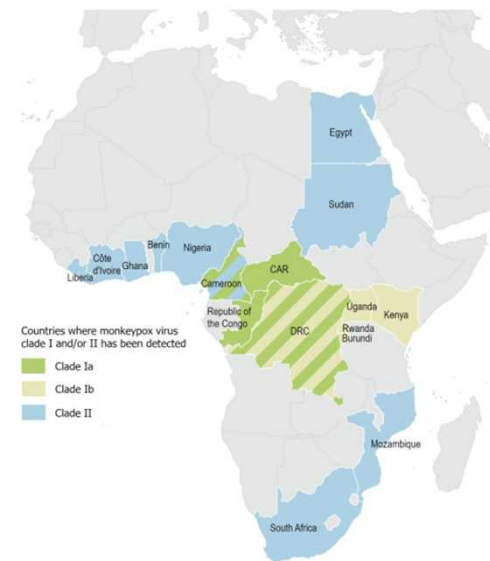
# WHOがエムポックスに対して国際的に懸念される 公衆衛生上の緊急事態を宣言

- WHOが8月14日に国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態を宣言
  - ✓ コンゴ民主共和国では、Mpoxの報告件数、死亡者数が増加傾向
  - ✓ コンゴ民主共和国東部で新たなクレード (Clade b) が急速に拡大し、これまで報告のなかった近隣諸国でも検知
  - ✓ 臨床的により重症で、従来よりも伝播性が高い可能性があり、子どもや妊婦などの脆弱な集団が影響を受けている
- アフリカ連合加盟国 (AU) におけるMpox発生の報告状況(2024年8月16日時点)

	AU加盟国	患者報告数	死亡者数	CFR
2023年	7か国	14,957人 (2022年より78.5%増加)	739人	4.9%
2024年	13か国 <sup>1</sup>	18,737人 (うち98%はコンゴ民主共和国)	541人	2.9%

- 1 カメルーン、**中央アフリカ共和国**、ナイジェリア、ガーナ、**コンゴ民主共和国**、**コンゴ共和国**、リベリア、南アフリカ、コートジボワール、**ルワンダ**、**ブルンジ**、**ケニア**、**ウガンダ**  
 (赤文字: Clade b 確定症例が確認された国、下線の国は2024年7月・8月に国内初の報告)

\* アフリカ大陸以外での確定例は現地流行地域に滞在中に感染した患者がスウェーデンおよびタイで計2例報告されたのみ (8月26日時点)

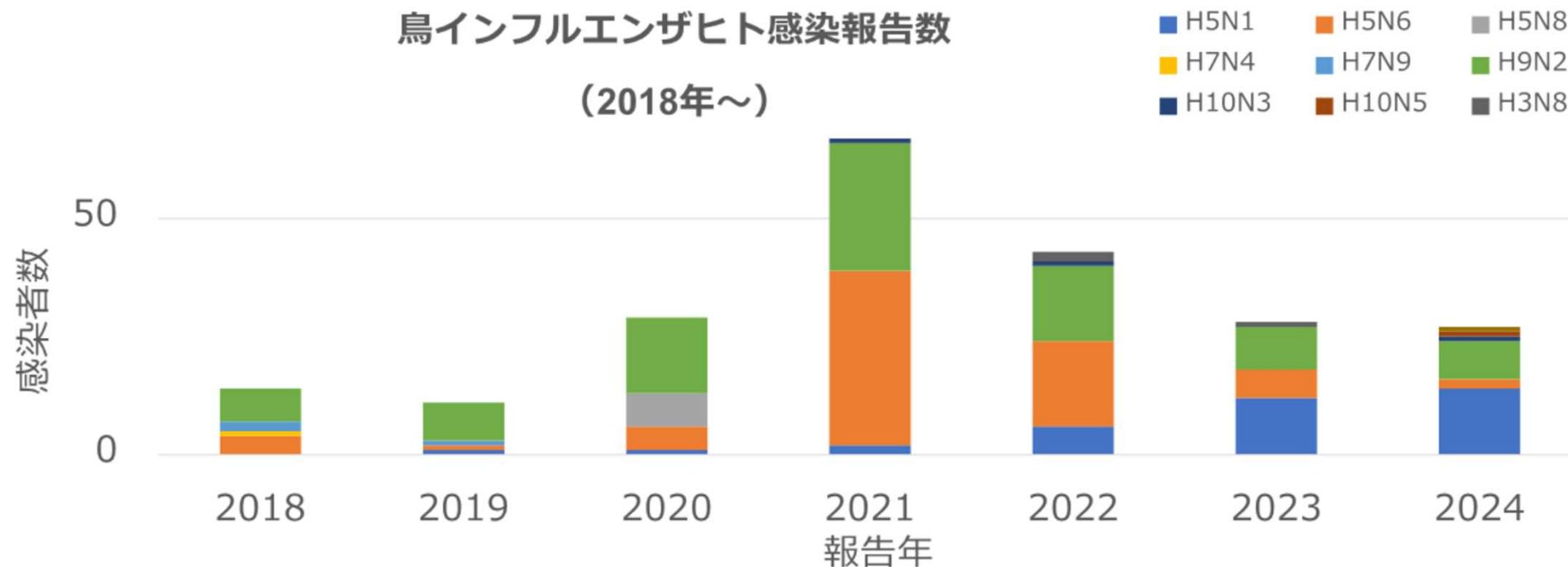


アフリカのClade別、Mpox発生の報告状況 (2024年8月14日時点)

- 国立感染症研究所の評価(2024年8月26日時点)
  - ✓ コンゴ民主共和国からの来日数を考慮すると、現時点では患者が輸入されるリスクは低い
- 滋賀県の対応(2024年8月26日までの対応)
  - ✓ 県ホームページを更新するとともに、しらが、SNSで流行地を含む渡航者に注意喚起
  - ✓ 県内医師会および病院協会あてに注意喚起のための事務連絡を发出



# 世界のヒトにおける鳥インフルエンザの検出状況（2024年8月14日時点）



WHO DONs、WHO assessment、ECDC より作図

- ✓ 2018年以降のヒトにおける鳥インフルエンザの検出状況は、2021年をピークに減少傾向
- ✓ 2023年以降H5N1の割合が増加（検出国：ベトナム、米国、オーストラリア、カンボジア）
- ✓ 2024年3月25日以降米国の牛群でH5N1の感染拡大し、13州の190牛群で検出（8月13日時点）
  - ヒト感染例は3州の4例で検出（いずれも主症状は結膜炎など軽症例）
- ✓ WHOは、鳥インフルエンザがヒトで持続感染するリスクは低いと評価（8月14日時点）